

終局曲げ耐力の計算について

・NewJ-BAR の終局曲げ耐力は以下の基本仮定のもと、多くの実績がある層分割法を用いて計算しております。

- (1) 終局曲げモーメント計算のモデル化及び解析方法は下記とする。
 - ・主筋が 8 本以上の場合には主筋群を等価な円環にモデル化する、解析方法は主筋、コンクリート共に層分割法を用いる。
 - ・主筋が 8 本未満の場合には、主筋は個々の断面積及び配列をそのまま評価し、コンクリートは層分割法により、荷重の作用方向及び主筋の配置状況の中でその最小値を採用する。
- (2) 断面は変形後も平面を保持するものとする。すなわち、圧縮領域では鉄筋とコンクリートの歪みは同一とする。
- (3) 圧縮コンクリートの歪みが破壊歪みに達した時を終局状態とする。
- (4) コンクリート及び鉄筋の応力度—歪度曲線は図 1 に示すものとする。

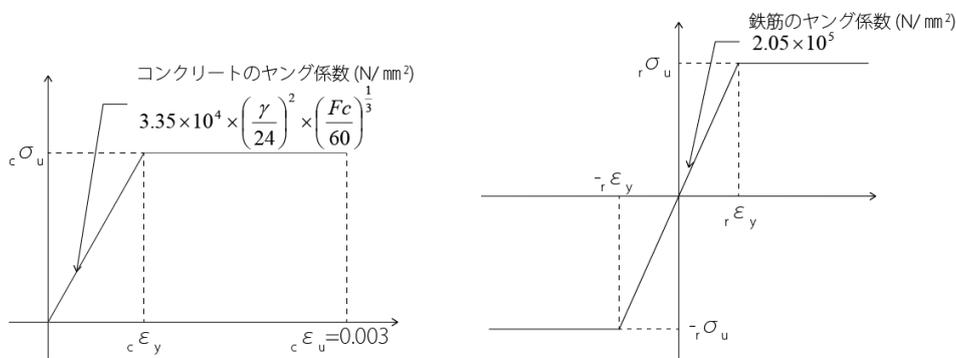


図 1 終局強度計算用応力度—歪度曲線 (N/mm²)

上記応力度—歪度曲線は日本建築学会「建築耐震設計における保有耐力と変形性能(1990)」場所打ちコンクリート杭の終局強度と変形性能に基づいている。

・エンジニアリングサービスについて

NewJ-BAR ホームページ(<http://www.j-bar.jp/>)、または設計マニュアルに添付の計算依頼シートを使用してのメール(s-1sekkei@mbm.ocn.ne.jp)・FAX(026-284-5075)にて終局計算も含めたエンジニアリングサービスを無料で提供しております。

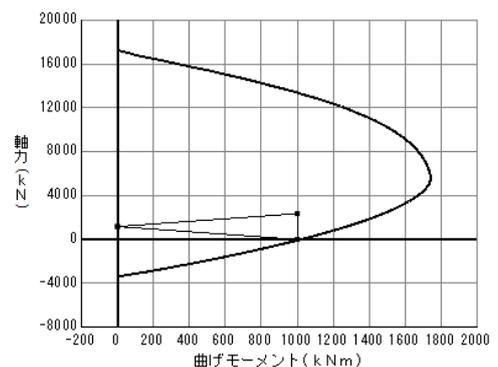


図 2 終局曲げ耐力計算結果のサンプル